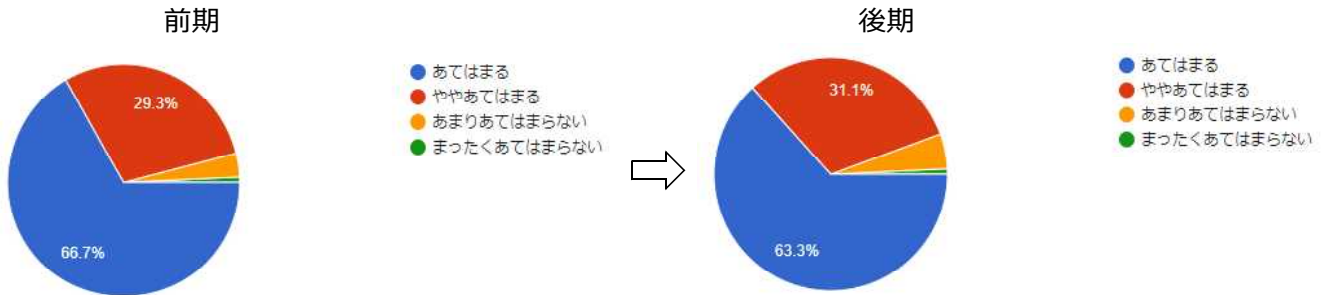


A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない  
D：まったくあてはまらない △：よくわからない

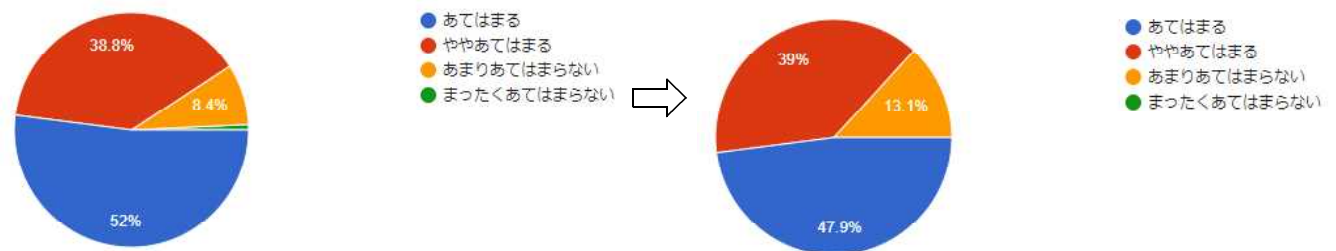
1 授業の中で、友達や先生と関わり合いながら学ぶことができました。

No.1



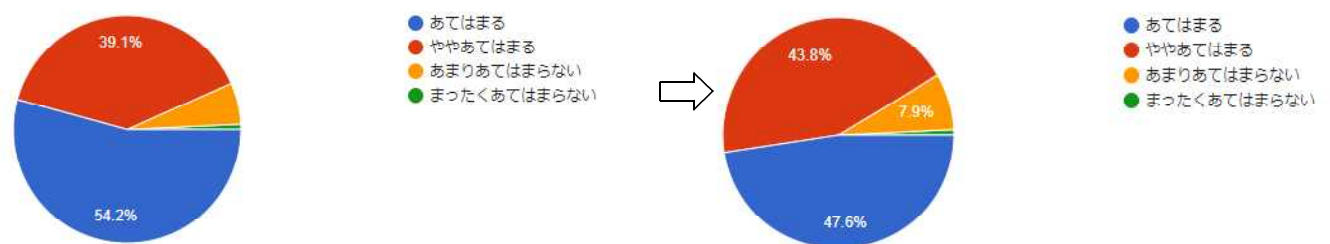
全学年でA+Bが9割を越えています。生徒は、関わり合っで学んでいると感じています。今年度は、一人一台端末（Chromebook）を活用し、グループで考えを交流したり、他学年や他校の生徒と意見を交換したりする機会を多くもつことができました。分からないことを互いに教え合う姿が日常的に見られます。生徒同士の考えを交流させる場面では、生徒の表情がいきいきとしていました。

2 授業の中で、「分かった」「できた」と感じるが多かった。



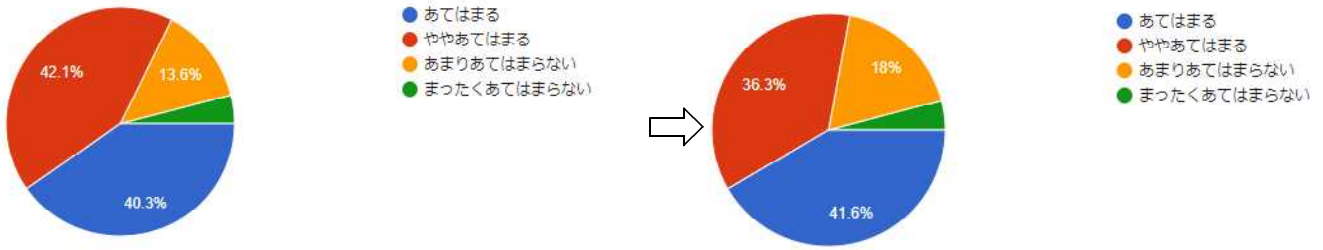
授業を通してどのような力を身に付ければよいかを明確にし、生徒と共有する授業づくりを目指して、学校全体で、日々の授業や研修を通して取り組みました。授業のまとめとして、学んだことを整理し、自分の言葉でノートにまとめる「学習の振り返り」についても定着しています。あまり「分かった」と感じていない生徒が、各クラスに数名見られます。これからも、一人一人の学びを大切にしていきます。

3 ICTやグループ活動を通して、学習課題を解決したり、自分の学びを振り返ったりすることができた。



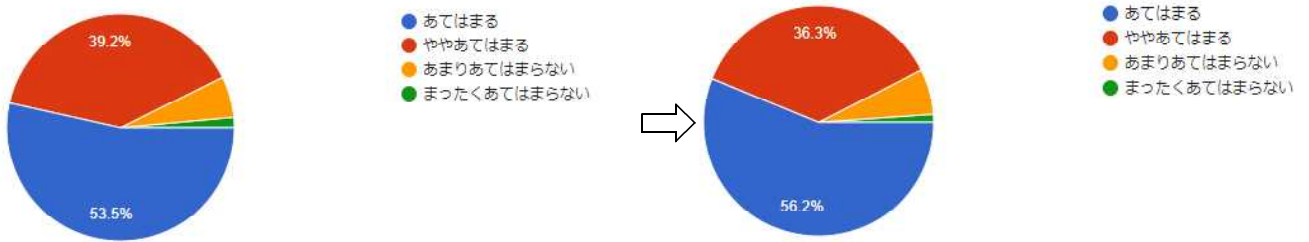
ほとんどの生徒が、ICTの活用やグループ活動に意欲的に取り組みながら、学習を進めています。振り返りの記述には、分かったこと以外にも、更に学びたいことや日常生活に発展させた考えなどもあり、主体的に学ぶ姿を見取ることができました。学習を調整する力へとつなげていきたいと思ひます。

4 予習や復習など、家庭で学習に取り組んだ。



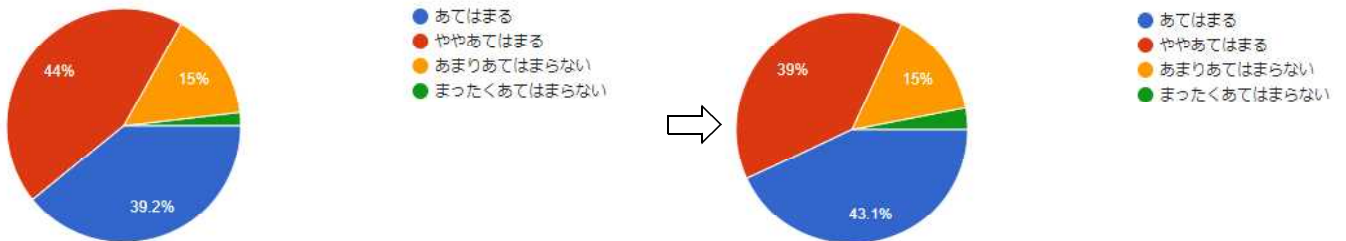
昨年度に比べ、A + Bが増加傾向にあります。特に、2・3年生は、進路を意識した日々の取組により、成果が表れています。今後も、生徒に対する指導を引き続き行いながら、その結果（成果と課題）をお便りや面談等で保護者の方にお伝えしていきます。

5 道徳の授業では、自分と向き合いながら、生き方について考えることができた。



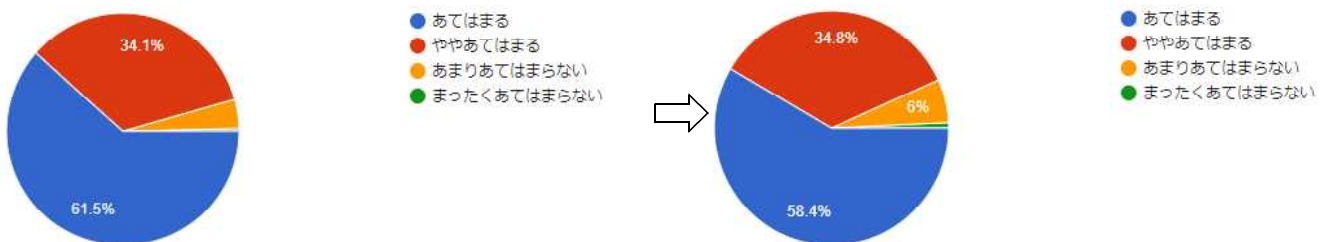
道徳科の教科書・ノートを活用し、毎時間の「特別の教科 道徳」の実践の効果が見られます。A + Bの割合が9割を越え、昨年より1割向上しました。小中一貫教育の取組として、道徳教育に力を入れ、指導法などの共通実践をしています。今後も授業を通して、生徒同士、生徒と教師で心の交流を行うとともに、自分を見つめ直す授業の展開を図っていきます。

6 進んで学校行事や生徒会活動、学級活動に取り組んだ。



体育祭、輝龍祭等の様々な行事が感染症対策の形式になりましたが、A + Bが8割を越え、昨年度より2割近く向上しています。制限された中でも工夫して実践できることを、生徒とともに考えながら、行事の計画・運営を行いました。今後も生徒たちが主体となる諸活動の運営等を全職員で支援し、生徒主体の活動をさらに活性化し、活気のある学校づくりに取り組んでいきます。

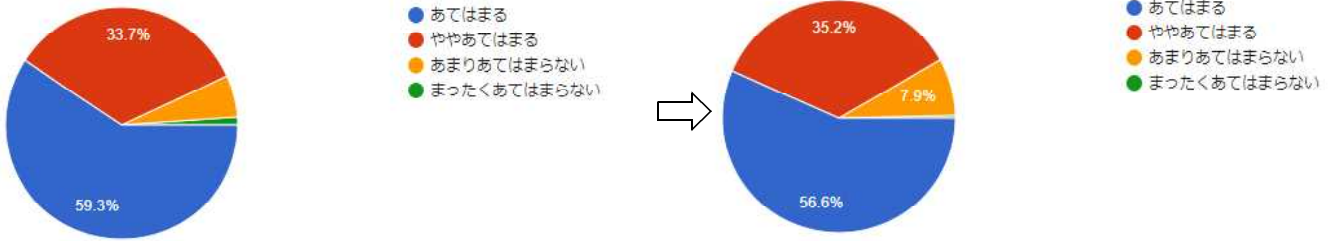
7 時間を守って学校生活を送ることができた。(登下校を含む)



全ての学年でA + Bの割合が高くなっています。登校の様子も良好で、時間に余裕をもって教室に入る生徒が多く見られます。「時を守る」とについては、生徒も教師も心に留め努力している内容です。また、小中一貫教育の取組として、「2分前着席」を継続的に実践してきた成果が見られます。中根台中学校区のよさとして定着させていきたいと考えます。

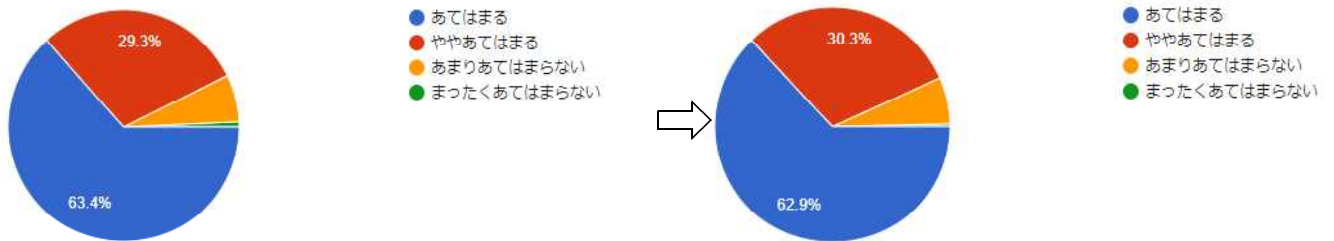
8 黙働にしっかりと取り組み、場を清めることができた。

NO.3



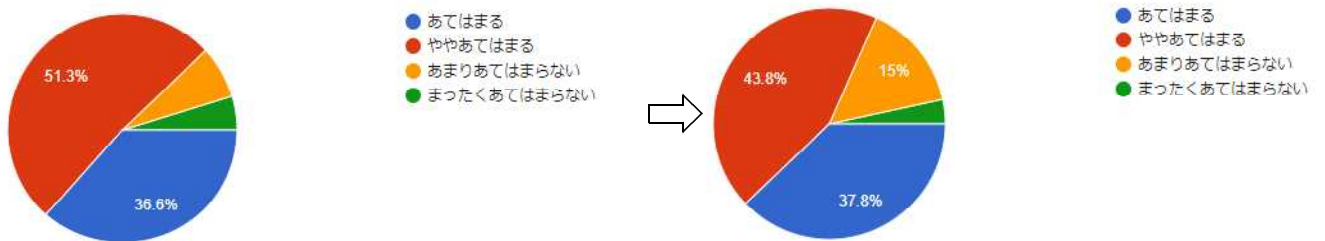
小中一貫教育として小学校から取り組んでいる内容です。3年生がすばらしい姿を下級生に示し、中根台中学校のよき伝統になりつつあります。1・2年生も、学年生徒会で話し合ったり、生活目標に掲げたりしたことで、意識を高めてきました。環境が人をつくると言われます。掃除ができることは、その他の生活にも大きな影響を与えていきます。

9 自分から進んであいさつをしたり、あいさつを返したりすることができた。



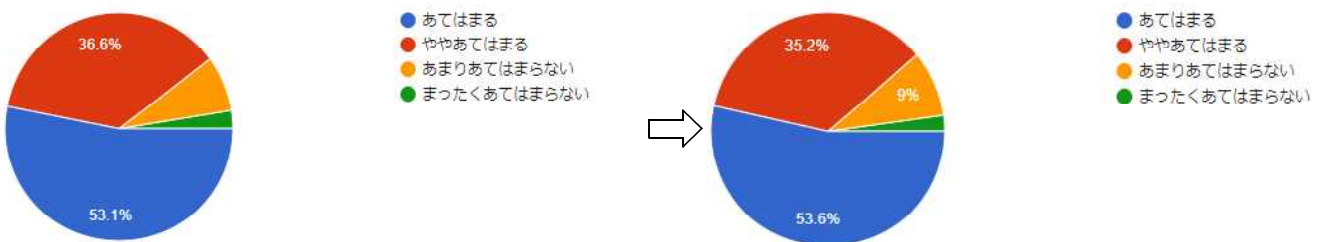
9割上の生徒はよくできていると感じているようです。人間関係づくりの一步のとして「あいさつ」に加え、感謝の言葉なども積極的に伝えることができる生徒も多く見られます。今後も全校で取り組んでいくとともに、教師自ら範を示し、一緒に気持ちのよいあいさつや声かけをしていきます。

10 先生は、自分のことをよく分かってきている。



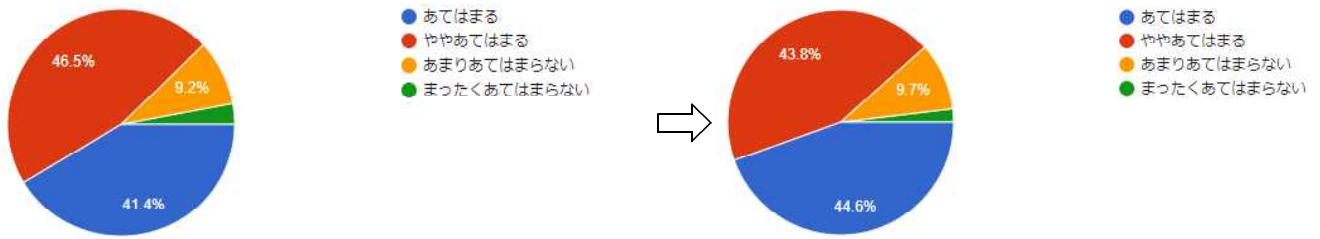
A + Bが8割を越え、昨年度よりも1割程度増えています。各担任は、生活ノート等の活用や個人面談など、一人一人の生徒との対話の機会を確保しています。また、養護教諭やさわやか相談員、スクールカウンセラーなど、担任以外の立場の教職員も、生徒の悩み相談などに応じています。今後も生徒の話に耳を傾け、一人一人をていねいに理解していききたいと思います。

11 学校には自分の居場所があり、学校に行くことが楽しかった。



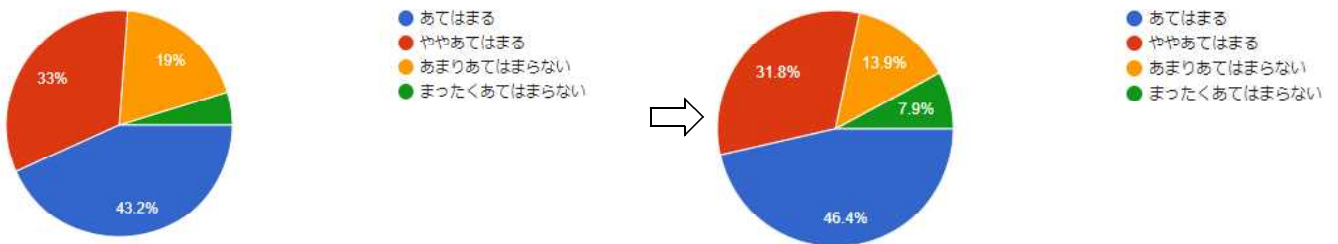
約9割の生徒が、肯定的な考えをもっています。日々の授業や学級での生活、行事等を通しての充実感を味わわせることができたと考えます。よいところを見つけて認め、それを周囲（学級・学年・家庭）に広めることを繰り返し行うことで、生徒の自己肯定感は高まっています。教師は、これからも生徒のよさを引き出し、認め、保護者と共有しながら、居場所づくりに努めていきます。

12 困っている友達を助けたり、言葉かけをしたりすることができた。



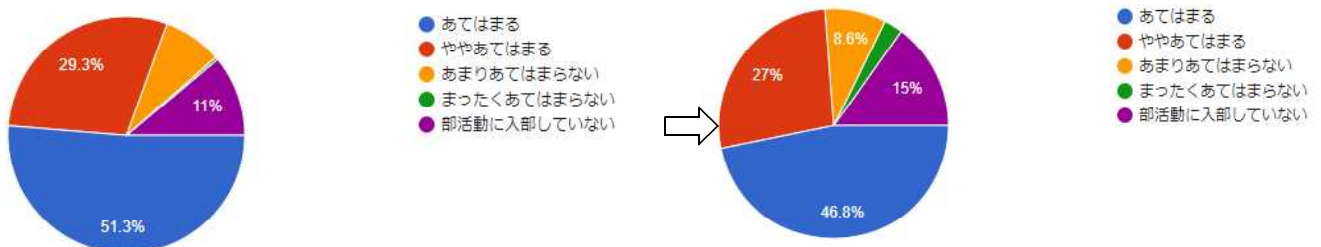
A + Bが9割近くを占めています。今日のMVPやキラリさんなど、全学級で互いのよさを認め合う時間を設定しています。また、教室や廊下に掲示し、環境面からも支え合うことのよさを伝えています。普段の生活の中で受容的な雰囲気をつくっていくとともに、生徒たちが学校生活で一番多くの時間を費やす授業の中で、協働的な学習を展開し、好ましい人間関係づくりを継続していきます。

13 自分のよさをいかして、夢や目標に向かってがんばっていることがある。



全学年、約8割近くの生徒が、部活動や進路等について、明確な目標をもち努力していることが分かりました。龍ヶ崎市の取組である「龍の子人づくり学習」においても、常に、目標の振り返りを大切にしています。これからも、授業や部活動、学校行事等で、目標・実践・振り返りのサイクルを確立させていきます。

14 部活動に進んで取り組み、心も体も成長している。(入部者のみ)



3年生は部活動の時間が短かったため、A + Bの割合が控えめでした。1・2年生は、様々な制限の中でも部活動全体や個人の目標を設定し、積極的に部活動に取り組んでいます。部活動は、中学校生活の中で大きな意味をもつ活動です。今後も、短い時間の中でも効率的・効果的な活動となるよう、学校全体で支援していきます。